

「ツタヤ図書館」の“いま”

- 公共図書館の基本ってなんだ？ -



図書館友の会全国連絡会

2016年1月30日

1 この「ミニパンフレット」の趣旨

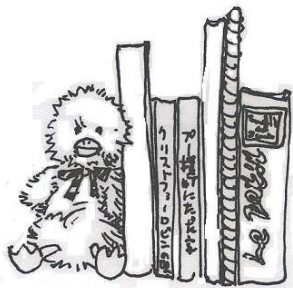
○まずは知ろう

賛否両論が渦巻く「ツタヤ図書館」が全国の自治体に広がろうとしています。そうしたなか図書館としてのあり方論議を超え、地方自治そのものが問われるまでになりました。

「ツタヤ図書館」がなぜこれほどまでに騒がれるのか？ここでは「ツタヤ図書館」の現状をごく簡単にお伝えすることで、なぜ大きな話題となっているのかを理解する糸口を掴んでもらうことを目的としています。

○調べてみよう

これを読んでさらに詳しく知りたいと思われたなら、最後に記してある参考資料のインターネットのページや雑誌、新聞などを読んでみてください。インターネットならご自宅のパソコンやスマホからでも見ることができ、図書館のパソコンコーナーを利用するのも良いでしょう。雑誌や新聞は図書館で閲覧できます。利用している図書館に置いていない雑誌や新聞があれば、ほかの図書館から貸し出しやコピーをお願いすることができます。図書館の窓口に行って「レファレンスをお願いします」もしくは「調べたいことがあるんです」と言って「ツタヤ図書館」について調べるための手伝いをお願いすることもできます。



〈基礎知識〉 図書館運営の大別

- * 『直営』 行政が直接運営する
 - * 『業務委託』 管理権限を持つ行政の指示で外部からの受託者が運営する
 - * 『指定管理者制度』 管理権限を持ち、図書館運営の全てを担う
- (そのほか『市場化テスト』『PFI』)

@ツタヤ図書館は指定管理館です。

2 「ツタヤ図書館」の誕生（佐賀県「武雄市図書館」）

○突然の事だった

2012年5月4日、当時の武雄市長が突然、佐賀県庁と東京の代官山蔦屋で“新図書館構想”を発表しました。議会にも図書館協議会にも相談をしていない独断での発表です。武雄市民への説明会は、後日、市民からの要望で開催されました。この時、複合施設「武雄市図書館・歴史資料館」は築12年でした。

この新図書館構想に疑問を持った市民有志が、同年7月4日に「武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会」（以下「市民の会」）を立ち上げ、9月の定例議会で検討してもらうため、市民の会で作成した『私たちの図書館計画』等を議長に提出し、議会でのプレゼンテーションを願い出ました。しかし、議会で1議員と市長から“提言した”という行為を強く咎められ、資料は捨てられてしまいました。

また、歴史資料館の常設展示施設「蘭学館」（設置費の一部は市民の募金）の存続を心配する多くの市民に、市側は「蘭学館に対する改修予算はついていない」とだけ答え、突如12月議会に提出された条例改正により、「蘭学館」はTSUTAYAのレンタルビデオコーナーになりました。歴史資料館・蘭学館は武雄市が直営で運営しており指定管理者の管轄外なの입니다。その1年後、2014年3月に「蘭学館」を中心に展示収蔵されていた武雄鍋島資料2,224点が国重要文化財として一括指定されました。「蘭学館」の価値はそれほど高かったのです。いま、地域資源（歴史・文化・人）を評価しない“まちづくり”が問われています。

さて、改修のため同年11月から5か月間休館していた「武雄市図書館・歴史資料館」は、2013年4月1日「武雄市図書館」と書かれた看板を付けてリニューアルオープンしました。開館日数と開館時間は増えました。しかし、指定管理でコスト削減という触れ込みであったのに、実際の運営費は約3千万円増えていました。

3 武雄市図書館での図書購入問題のマスコミ報道

○明らかにになった新古書購入

2013年度に「武雄市図書館・歴史資料館」のリニューアルオープンにあわせて約1万冊購入された図書は、指定管理者であるCCC（カルチュア・コンビニエンス・クラブ）の当時傘下であった大手古書店「ネットオフ」から購入された新古書でした。その中には、遠隔地のラーメンマップや古い試験問題集など、これまでの蔵書構成とも合わない、首を傾げるようなものが多く混じっていたほか、同じ本が複数ありました。この事実は2015年8月、武雄市民による情報開示請求で明らかにされたものです。この事実は、不適切な選書だとしてマスコミにも多く取り上げられ、CCCからは増田宗昭代表取締役社長名で「より精度の高い選書を行うべき点があった事を反省しております。」とのコメントが発表されています。

○新古書購入の内幕は？

そもそも、武雄市図書館の図書購入に際して新古書は想定されていませんでした。武雄市教育委員会は、落下防止柵の設置など安全対策に急遽1224万円かかることになり当初の蔵書購入費（2056万円）の一部をそれに充て、残りの756万円で約1万冊分の図書購入ができるよう調整するために新古書を購入したと釈明しています。



4 神奈川県海老名市にも武雄市図書館問題が飛び火

○図書ですらない選書

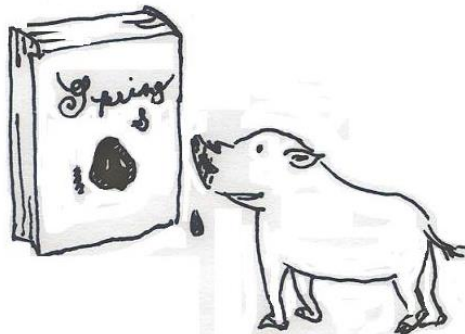
武雄市図書館の図書購入問題はCCCに対する選書への不信感となり、2015年10月1日のリニューアルオープンを待つ神奈川県海老名市の海老名市立中央図書館にも疑惑の目が向けられました。それを受け、9月の海老名市議会で明らかにされた選書リストには、武雄市同様古い実用書や豪華付録付き雑誌の書名が並ぶほか、単なるメガネ拭きなどもあり、急遽、教育長が購入予定の本を1冊1冊手にとって確認すると宣言する事態になりました。そのような異常事態のままオープンした図書館には、多くの人が問題だと考える図書が書架に複数置かれていました。

*注1

○議会でも取り上げられる

また12月議会で「リニューアル工事でCCC側が負担した2億4千万円分の工事の内容が不明」「Pマーク（プライバシーマーク。個人情報情報を適切に扱う事業者が使用できる）を返納していた」など、CCCが公共事業を代行する指定管理者として適当か疑問視する事実が取り上げられました。

海老名市が支払っている指定管理費は、市直営時代の倍額に跳ね上がっています。



5 CCCの「ライフスタイル分類」の問題点

○図書を分類する目的とは？

海老名市立中央図書館では、武雄市図書館でも採用されていたCCC独自分類である「ライフスタイル分類」をより強く打ち出しています。例えば旅行ジャンルの中に旧約聖書の「出エジプト記」や「伊勢物語」のほか宮沢賢治の「やまなし」が分類されるなど予測不能な配架がなされ、利用者の目的の本が探しづらい状態になりました。その酷さは、ネット上や雑誌で「あまりに斬新すぎる」と痛烈に皮肉られるほどです。この分類は「発見」を重視したためだそうです。これでは目的の本を素早く探すことができません。また、問題のある分類はその都度修正するとしていますが、それはライフスタイル分類が些細なことで変更されるものであることを意味しています。書店であれば流行り廃りにあわせて分類を変えたほうが商売に向くでしょう。けれども図書館は、時代に合わせつつも10年先100年先でも十分に使えるよう図書を分類する必要があります。

ちなみに、ライフスタイル分類についてCCCの増田宗昭代表取締役社長は、これからも変えないとして「俺らの持ち味は独自分類だから（週刊東洋経済 10/31）」と明言しています。



6 「ツタヤ図書館」のその他の問題点

○他者の意見を聞かないCCC

海老名市立図書館の指定管理者はCCC単独ではなく、図書館の指定管理では実績のあるTRC（株式会社図書館流通センター）との共同事業体です。実質的にはTRCが分館の海老名市立有馬図書館を運営し、改修工事に入って以降の海老名市立中央図書館にTRCは関わることができなかつたようです。その結果、リニューアルオープンから1週間もたたない10月5日、TRCは“様々な提案や助言をしてきたが聞き入れてもらえず思想の違いから協力関係を解消する”という三行半をCCCに突き付けました。その後、市を交えた話し合いの末、海老名市立図書館は基本協定満了日の2019年3月31日まではCCCとTRCの共同で運営することに落ち着きました。しかし、それ以外では今後TRCはCCCとは共同しないと宣言しました。共同事業者であるTRCがこんなことを言い出すのも、指定管理が2館目であるCCCが、実績のあるTRCの提案や助言を聞き入れず協力関係を解消したいとまで言わせたことも、異常な事態といえるでしょう。

○「ド素人」宣言

また、海老名市立中央図書館に新しく館長として就任したCCCの高橋聡氏は、リニューアルオープン前の会見で「武雄市図書館の時、僕たちはド素人でした。」と明言し多くの人を驚かせました。同時に「(武雄市図書館で)もっと良いことができたのではないかと反省しています」とも言っているのです。



高橋氏はこれまで数々のメディアでツタヤ方式図書館の良さをアピールしてきましたし、2013年にはこうも言い切っています。「先生にとっては図書館じゃないかもしれませんが、僕らにとっては図書館なんですよ。ただそれだけの話です。」*注2

7 他市の「ツタヤ図書館」構想

○反発を受ける「ツタヤ図書館」

愛知県小牧市では、ツタヤ図書館化するという現在の図書館計画への住民投票の結果が反対多数となり、図書館計画の見直しを行っています。

山口県周南市の市民は「県オンブズマン市民会議」を立ち上げ、新徳山駅ビルにツタヤ図書館が入る計画の是非を問う住民投票条例を請求する署名活動を実施。必要な署名数が約2,500人分のところ、ひと月で9,129人分の署名を集め、12月下旬、周南市選挙管理委員会に提出できたので、住民投票を実施するかどうかを議会にかける流れができました。

多賀城市議会では『「公募もせずCCCの指定管理を決めたのは誤りだった」と指摘したのに対し（中略）教育長は「駅前再開発などまちづくりと一体で考え、選んだ。議会の議決など手続きも適切」と答弁（毎日新聞 2015年10月15日地方版）』という一幕もあったようです。

○全国に広がる「ツタヤ図書館」

他に、現在「ツタヤ図書館」を誘致しようとしている自治体は、岡山県高梁市、宮崎県延岡市（図書館の様な施設とのこと）があります。



8 「ツタヤ図書館」に対する行政の対応

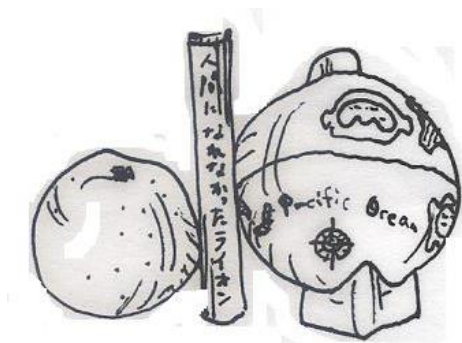
○図書館に「賑わい」を求める行政

海老名市立中央図書館での混乱は、武雄市図書館を注視していれば予測できることでした。にもかかわらず、CCCの独自分類を了承し、空間演出のための高層書架を歓迎したのは海老名市です。（ただし、武雄市図書館とは違い、子ども用の書架だけは子どもでも手の届く高さの物が導入されたようです。）

また、新規購入図書が新古書だったことについて、海老名市や武雄市がどのように捉えていたのかは不明ですが、2016年3月ツタヤ図書館としてオープン予定の多賀城市立図書館は、購入図書の一部が新古書になる計画です。

「利用者数」や「賑わい」に惑わされず、図書館が持つ役割をしっかりと把握して当たっていれば、CCCを指定管理者に選ぶことで背負うリスクの大きさに気づくのは、そう難しいことではないはずです。

CCCの増田宗昭代表取締役社長はこう言います。「CCCに任せると決めたのは市。こっちは任せられた範疇で運営している。市民にも文句を言える仕組みがある。（週刊東洋経済 10/31）」。



9 「ツタヤ図書館」と学校図書館支援事業

2015年度からCCCは多賀城市で小学校6校への学校司書派遣業務を行っています。CCCが多賀城市立図書館の指定管理者になるのは2016年3月からですが、2015年度から図書館の窓口業務を中心に業務委託として関わっています。

学校図書館にもかわりだしたCCCは、海老名市立中央図書館館長・高橋聡氏が文部科学省の「学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議」の委員にも名を連ねています。

《出典》

〔注1〕○議会リポート（図書館問題速報（第2弾）山口良樹後援会発行）

<http://www.yoshiki-yamaguchi.com/report8.html>

〔注2〕○図書館総合展「『武雄市図書館』を検証する」全文（樋渡啓祐市長、糸賀雅児教授、CCC高橋聡さん、湯浅俊彦教授）-激論、進化する公立図書館か、公設民営のブックカフェか？

http://www.huffingtonpost.jp/2013/10/31/takeol_n_4186089.html

【1】○武雄問題文書館-資料室

<https://www.nantoka.com/~kei/TakeoReferences/>

○ ツタヤ図書館関連メディア報道一覧

<https://www.nantoka.com/wiki/wiki.cgi/takeoproblem?page=%A5%E1%A5%C7%A5%A3%A5%A2%CA%F3%C6%BB>

○ たけおポータル 予算・財政状況

<http://www.city.takeo.lg.jp/shisei/yosan/>

【2】○武雄市図書館・歴史資料館を学習する市民の会

<http://takeolib.sblo.jp>

○武雄市歴史資料館

<http://www.city.takeo.lg.jp/rekisi/his-top.html>

○武雄市図書館

<https://www.epochal.city.takeo.lg.jp/winj/opac/top.do>

【3】○【武雄市図書館選書】市教委「図書購入費を削り、本の落下防止対策費に」樋渡前市長は「関知せず」

http://www.huffingtonpost.jp/2015/09/11/takeoshi_n_8124474.html

○東野圭吾の小説『手紙』は手紙の書き方コーナーに 海老名 TSUTAYA 図書館の怪

<http://dot.asahi.com/wa/2015101400051.html?page=1>

【6】○文化通信 2015年10月26日（立ち読み）

http://www.shimbun-online.com/product/Bunka_Tsushin0151026.html

○CCC-事業概要

http://www.ccc.co.jp/business_outline/index.html

○TRC-運営実績

<http://www.trc.co.jp/outsourcing/index.html>

【9】○学校図書館の整備充実に関する調査研究協力者会議

http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/shotou/115/index.htm

【参考】○CCCの運営する図書館（通称「TSUTAYA 図書館」）に関する問題についての声明

<http://tomonken.sakura.ne.jp/tomonken/statement/ccc/>

○カフェのある図書館マップ（東日本版・西日本版）

https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=zfX-73xnN-Pg.kLXx8uf7kLM0&hl=en_US

https://www.google.com/maps/d/viewer?mid=zfX-73xnN-Pg.k5TIjw1ne6-g&hl=en_US

○図書館と大型書店を融合した文化・交流施設『OKEGAWA h o n プラス+』

<http://prtmes.jp/main/html/rd/p/000000002.000015407.html>

10 「図書館とは何か？」もう一度考えよう

○図書館に必要なのは、見た目と居心地ですか？

今でも人気のあるとされているツタヤ図書館ですが、ブックカフェとして褒め称えられるばかりで、図書館としては評価されるのを見たことがありません。それに人が多く集まり賑わいが創出できたと言っても、観光地としての訪問者が増えているのであって、図書館の利用者が増えているかは疑問です。

ところで、ツタヤ図書館の魅力の一つとしてあげられる高層書架は実用的ではありません。高い場所に置いてある図書はタイトルを読むことさえ困難ですし、図書の出し入れは脚立を使用した高所作業となり働く者にとって危険な作業になります。また、地震の際に図書が高所から落ちてくる可能性も考えると、高層書架の導入で利用者への危険性が増したと言えるでしょう。人に対する危険性が増す書架を、公共施設が導入するとはおかしな話です。

さらに、ツタヤ図書館では自動貸出システムを導入して司書を雑務から解放するとのことでしたが、実際は図書館業務と書店業務の両方をこなさなければならず、本の出し入れが不便な書架であることとも相まって、司書の雑務が増えているようです。

カフェが併設されている図書館は決して珍しいものではありません。ツタヤ図書館でなくても複合施設として図書館と書店やカフェが同居している例も、朝9時から夜9時まで開いているところも、原則年中無休という図書館もすでにあります。夜は無人開館することで24時間開館という図書館さえあるのです。

図書館の目的は「国民の教育と文化の発展に寄与すること（図書館法第一章第一条より）」です。これを踏まえて、望ましい図書館の役割とは何かをこの機会に、皆で一緒に考えてみませんか。



私たちの図書館宣言

図書館は人類の叡智の宝庫です。読み、調べ、学び、交流し、必要な情報が得られる教育機関として、私たちの自立と地域社会の発展になくてはならない施設です。

私たちは、ここに図書館のあるべき姿を掲げます。

- 一 知る自由と学ぶ権利を保障する図書館
- 二 いつでも、どこでも、誰でも、身近に無料で利用できる図書館
- 三 資料・情報が豊富に収集・整理・保存・提供されている図書館
- 四 司書職制度が確立され、経験を積んだ館長と職員がいる図書館
- 五 利用者のプライバシーを守る図書館
- 六 情報公開と民意に基づく図書館協議会が機能する図書館
- 七 教育委員会の責任で設置し、直接、管理運営される図書館

私たちは、この実現のために、図書館を支え、守り、すべての人と手をつなぎ、図書館とともに成長することを宣言します。

《図書館友の会全国連絡会 2009. 5. 25総会決議／2012. 5. 22総会改訂》

Copy Right ©図書館友の会全国連絡会All Rights Reserved.

図書館友の会全国連絡会 連絡先

事務局

ホームページ：<http://totomoren.net/>

メールアドレス：info@totomoren.net

FAX：072-741-4582